

武蔵野

本社 江東
立川 武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

4月14日(水曜日)
旧 3月3日<大安>

あすの暦

通日 104
月齢 2.0
(正午)

日出 5.10 満潮 5.43
日入 18.13 18.29
月出 6.21 干潮 0.02
月入 20.10 12.16
(大潮)



—東京標準—

かつて早稲田大学の学生だった土岐善麿は、文学仲間と武蔵野を吟行し、読売新聞(1906(7年)に「むさし野」と題する短歌を50首発表しました。その中の「むさし野は片岡つゞき並杉の葉すゑ赤みて春となりけり」は、3年後に次のようなローマ字短歌となり、第1歌集「NAKAIWARA」(ローマ字ひろめ会、1910年)に収録されます。

「NAKAIWARA」に収録されたローマ字短歌

(Mj. 40)
Ihidatami, koborete utsuru Mizahara wo,
Hirou ga gotoshi!—
Omoisuru wa.
*
Kimi onou kokoro ni niru ka,—
Haru no hi no
Tatogaregata no hanokaki akarumi!
*
Musashino wa Kataoka-tsuzuki,
Namsugi no hasue akarumi,
Haru to narikeri.
*
Haru asashi!—
Ochiba no ue wo.

漢字伝来以前の大和言葉である「むさし」の口承性と音楽性に立ち返り、「むさし」という言葉の葉を口と耳とで味わえたとき、目に映っている

漢字伝来以前の大和言葉である「むさし」の口承性と音楽性に立ち返り、「むさし」という言葉の葉を口と耳とで味わえたとき、目に映っている

土岐善麿 ②

「むさし」は、古事記では「无邪志」、万葉集では「牟射志」と記されています。その語源は不明ですが、大和言

土岐善麿は、武蔵野、むさし野、むさしの、Musashiと表記を使い分けました。ローマ字短歌を見ると、ハイカラな斬新さに目がいくかもしれせん。ですが、漢字の視覚性にとらわれて意味を追いがちな目の習慣を離れて耳をすます試みと考えるとう

ローマ字短歌に音楽性

文人の
武蔵野

おすすめの1冊

「中学国語」

1959年、土岐善麿が国語審議会会長だった時に筆頭編著者として刊行した中学生用の国語教科書です。図書館学の初歩を記し、「ノートのと리카た」という項目を設け、放送劇を念頭に置いた教材を用意して書き言葉と話し言葉を学べる仕掛けも作っています。民主的な討論や会議を重んじている点にも特徴があります。



(中教出版、むさし野文学館蔵)

いつもの風景も違って見えるかもしれません。土岐善麿は、ローマ字の普及に努め、日本語表記方法の改善を目指す国語国字問題に取り組み、国語審議会会長を務めた日本語学者でもありました。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)